「不況はチャンス」中小企業応援

「社長の教科書」税理士が出版

100問100答で悩み解決

不況が深刻化する中で、国立市で会計事務所を経営する大石豊司さん(49)が、中小企業の経営者の悩みに答えた著書「経営以前の社長の教科書」(現代書林)を出版した。100の質問を「社長の存在」「社員の役割」など五つのテーマに分けて、ずばりと解説している。大石さんは「顧客が別の企業と契約を結んだり、新たな店を探し始めたりと動きが激しい不況時は、ビジネスのチャンス」と、向かい風にさらされる経営者にエールを送っている。

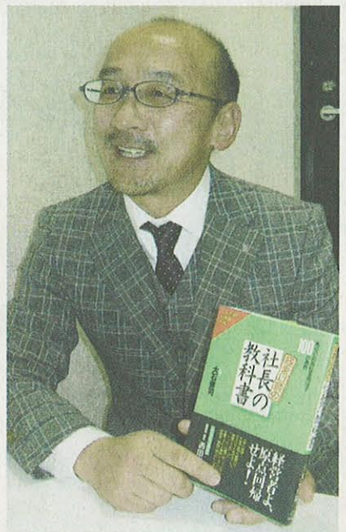
銀行マンだった大石さんは税理士の資格を取得後、19年前に「大石会計事務所」を開業。顧客の半数は多摩地区の企業で、4年前から事務所のホームページで連載しているコラムを自費で冊子にして顧客に配ったところ、それが出版社の目に留まり、コラムを加筆・修正した単行本を出版することになった。

「これだけ不景気だと、何をやってもうまくいかないのではないか」――。著書は、これまで経営者から寄せられた相談を参考に項目を立て、それに答える「Q&A」の形で書かれている。回答は明快だ。「景気が良ければ業績も上がり、景気が悪ければ業績は下がるというのでは、あなたが経営している意味などまったくありません」

ほかにも、「繁盛店ほど商品を絞り込んでいる。売り上げを伸ばすなら、客層のターゲットと商品の絞り込みを」「相手の機嫌を損ねただけで存続危機とならないよう、特定の顧客のシェア(占有率)は40%以下に」などと、具体策を示している。

大石さんの持論は、「おいしい料理を出す店が、もうかるとは限らない」だ。「食べ始めるまでのおもてなしで、店に対する客の評価は決まってくる。食材や味という本質を大事にするのは当たり前で、今は本質を超えた部分で評価される時代」と力を込める。

四六判、224ページ。1300円(税別)。来月24日には、立川市のホテルで記念講演会が予定されている。



著書を手に、経営者にエールを送る大石さん(国立市内で)

西武斎場
JR駅歩1分・P70台
西武葬祭 042(551)2547

蓄音機 師走の街に

「温かい音」西国分寺で人気

国分寺市のJR西国分寺駅前で23日、蓄音機の演奏会が始まった。耳にする機会が少ない蓄音機の生の音色を味わってもらおうと、同市在住の音楽プロデューサー、野口眞一郎さん(56)が20年前から毎年開いているもので、野口さんは「心温まる音をぜひ聴いてほしい」と呼び掛けている。

演奏会は中華料理店「露(ロー)処」の店先で行われている。かつては喫茶店など室内を使っていたが、2年前に場所が取れず、駅前に蓄音機を置いたところ、通行人が次々と立ち止まるようになった。駅前はマンションが立ち並び、「音が反響して、ホールで音楽を流しているようだ」と野口さん。室内の時よりも聴衆の年齢層も広がり、店先で毎年、開くようになった。

蓄音機は1923年に米国で製造されたもので、約20年前に知人の紹介で買い取った。野口さんは「蓄音機だと音楽が立体的に聞こえてくる。デジタルの音楽プレーヤーには出せない音」と魅力を語る。

この日は、クリスマスソングやプレスリーなど約50枚のレコードを準備。曲が流れると、道行く人たちが物珍しげに蓄音機を眺めたり、音色に聞き入ったりした。知人の紹介で来た台東区の大学専任講師、井上英之さん(37)は「初めて蓄音機で音楽を聴いた。温かい音で、外で聴くのも気持ちいいですね」と喜んでいた。

演奏会は1月10日まで。午後6時半から8時半まで行われ、30日から1月4日までは休み。雨天時も中止する。問い合わせは野口さん(☎042・306・9628)へ。

▲ 蓄音機の仕組みや楽曲を紹介する野口さん(左)

高尾山40年ぶり 新ケーブルカー

高尾山(八王子市)のケーブルカー「もみじ号」「あおば号」の2台の車体が40年ぶりに新しくなり、23日に運転を再開した。車体のリニューアルは1949年、68年に続き3度目。

ふもとの清滝駅前では、始発を前に約200人が列を作り、切符を受け取ってカーに乗り込んだ。「新鮮」と喜んでいた。

運賃は鉄道と同じ限定で、1000円。

東久留米の野菜 「新鮮」と大人気

東久留米市の農産物を地元住民に食べてもらおうと、同市内の農家が23日、東和銀行東久留米中央支店(本町3)前で、地元産の野菜が板に付き、店主や参加者との会話も弾むようになってきた。

「買い物なら、八王子より、立川よねえ」。八王子市民からも、そんな言葉を耳にすることが多い。私自身も、専門店には敷居の高さを感じていた。だが、のれんをくぐると、温かい出迎えがあり、店員からは豊富な知識が飛び出してくることを知り、専門店で買い物をする機会も増えた。

売り出しの声とクリスマスのイルミネーションに彩られた師走の商店街。歩きながら、くちコミ隊の活動を起爆剤に、多くの人たちでにぎわえばと願う。

(井上妃)

(おわり)

記者ノート 2008

八王子「くちコミ隊」もてなしの心で街PR

私事だが先月から、着付けとお茶のお稽古を始めた。八王子の〝おもてなしの心〟に触れ、その一端を身に着けたいと思ったから。そのきっかけを作ってくれたのが「八王子まちの魅力くちコミ隊」。八王子駅周辺にある専門店の魅力を知ってもらおうと昨年8月に発足した市民グループだ。

隊員は9人。今年3月から、日本茶などの店を回り、八王子芸者の話も聞くことができる「八王子美人ツアー~八王子の和めぐり~」など三つの商店街ツアーを運営している。隊員が案内役を務め、八王子の良さを体感した参加者に、口コミで広めてもらうことが狙いだ。

イラスト・とよふく まきこ

八王子は古くから「織物の街」として栄え、宿場町としても多くの人々が往来した歴史がある。着物を粋に着こなす隊長の山下和子さん(55)は「八王子のおもてなしの心を伝え、商店街を活性化できないか」と仲間を集めた。

当初は、店主らに活動の趣旨を説明しても、いぶかしがられることが多かった。それでも四苦八苦しながらツアーを重ねるうち、店主がアイデアを出してくるなど、くちコミ隊と協力する姿も見られるようになった。

7月に行われた「ゆかたで味わう〝七夕〟夏茶会」もその一つ。10人ほどの参加者は全員が浴衣姿。呉服店「きものの西室」(横山町)では、着付け講座とかんざし作りを体験し、中国茶の専門店「晶山茶葉店」(明神町)で中国茶の作法を学んだ。店主らが緊張しながらも、熱心に説明する姿が印象的だった。

「口コミは行政や商店にはできないから、私たちがやる意味があるの」と山下さん。案内役の隊員もそろいの法被姿が板に付き、店主や参加者との会話も弾むようになってきた。

「買い物なら、八王子より、立川よねえ」。八王子市民からも、そんな言葉を耳にすることが多い。私自身も、専門店には敷居の高さを感じていた。だが、のれんをくぐると、温かい出迎えがあり、店員からは豊富な知識が飛び出してくることを知り、専門店で買い物をする機会も増えた。

売り出しの声とクリスマスのイルミネーションに彩られた師走の商店街。歩きながら、くちコミ隊の活動を起爆剤に、多くの人たちでにぎわえばと願う。

(井上妃)

(おわり)

多摩

【支局】
立川 〒190-8540 立川市曙町1-27-10 電話 042-523-4477 Fax 523-4478 メールはtachikawa@yomiuri.comへ
八王子 〒192-8536 八王子市本町24-8 電話 042-622-7161 Fax 622-7164
町田 〒194-0021 町田市中町2-4-14 電話 042-723-3661
府中 〒183-0026 府中市南町4-40-33 電話 042-351-4141
【通信部】
青梅 0428-21-4015
福生 042-551-0540
東村山 042-392-1121

購読、配達
八王子 644-6538
立川南部 522-0840
立川北部 537-6613
府中 362-5032
町田 722-7746
青梅 22-2937
福生 551-1110
東村山 395-4311
日野 581-7224
小平 325-6184
昭島 541-0276
東久留米 471-0053
武蔵村山 561-0077
東大分 562-2703
国分寺 321-0986
多摩 375-9424
稲城 350-6260
国立 572-3931
清瀬 491-1022
秋川 558-1843
読売広告 042-524-0435
読売旅行 042-523-1491
多摩読売ISS(折り込み広告) 042-522-1740

冬季限定品 雪見にごり酒
まぼろしの酒

天気 きょう 八王子 府中 青梅 小河内

あすの暦